

並木氏（武蔵屋銘）の墓



〔登録年月日〕昭和六〇年三月三〇日  
〔種別〕有形文化財（歴史資料）  
〔名称〕並木氏（武蔵屋銘）の墓  
〔点数〕二基  
〔所有者等〕個人  
〔所在地等〕上高井戸一―一八―二（長泉寺内）

## 並木氏（武蔵屋銘）の墓

武蔵屋銘の墓は並木家墓地にある一四基のうちの二基で、墓石に「武蔵」、「武蔵屋」の刻銘を持つものである。石質はいずれも安山岩である。

右側の「武蔵」銘の墓は九代から一二代にかけての墓で、高さは台石ともに一九〇・五cm、一三名の戒名が刻まれている。施主は並木伊兵衛とあり、造立年代は明治以降である。

「武蔵屋」銘の左側は七代の妻と八代夫妻の墓で、台石ともの総高は一・二cm、造立銘はないが、没年から見て明治以前と推定される。

並木家は江戸時代から甲州道中上高井戸宿で「武蔵屋」という旅籠を営んでいた家柄である。伝承によると武蔵屋は上高井戸宿の本陣であったといわれるが、資料が散逸して確証を得ることはできない。しかし、明治一三年（一八八〇）、明治天皇が山梨県巡行の際に休憩していることから、同家が格式のある家であったことは確かである。

本陣と確定はできないが、麦打ち唄にも唄われた「武蔵屋」の存在を示す宿場資料である。

### 【文化財所在地】

